

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
リスクマネジメント論 Theory of Risk Management		2年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	( )	
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
経営学Ⅰ・Ⅱ、技術戦略経営				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長江 庸泰	本館2F (研究室1)	月～木曜 9:00～16:00 (授業・会議時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
本授業では、企業の不祥事を事前に察知し予防すること目的に「リスクマネジメントの定義」、「事業リスクマネジメントシステム構築と維持」、「リスクマネジメント方針」、「リスクマネジメント計画の策定と実施」、「リスクマネジメントシステムの評価と是正・改善」などの学修を通して、不測の損害を最小の費用で効果的に対処するリスクマネジメントのスキルと実務能力を養成しながら、創意工夫できる「即戦力」を養うと同時に、グループワークによるプレゼンテーションを通して、最新のリスクマネジメント・スキルの習得を目的とする。				
授業の目標				
①グループワークによるプレゼンテーションを通して講義内容を身につけられるようにする。 ②豊かな教養と工学の基礎知識や方法をベースにしたマネジメントに関する基礎知識を有し、ビジネスの現場をマネジメントできるようにする。 ③国際的視野に立ち、必要な情報を収集・分析して自らの考えを説明することができるようにする。 ④生産性の向上や効果的なシステムの開発をマネジメントできるようにするために必要となるリスクマネジメントに関する知識を体系的に学修できるようにする。				
授業の方法				
本授業は、講義、マルチメディア授業、デジタルテキスト、プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク等を活用しながら、リスクマネジメントに精通した人材育成を目指すものである。				
学習の成果（学習成果）				
①グループワークによるプレゼンテーションを通して講義内容を身につけることができる。 ②豊かな教養と工学の基礎知識や方法をベースにしたマネジメントに関する基礎知識を有し、ビジネスの現場をマネジメントできる。 ③国際的視野に立ち、必要な情報を収集・分析して自らの考えを説明することができる。 ④生産性の向上や効果的なシステムの開発をマネジメントできるようにするために必要となるリスクマネジメントに関する知識を体系的に学修できるようにする。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの解説・授業の狙いと進め方・成績評価等）/リスクとは何か/レポート課題説明と出題			
第2回目	企業のリスクマネジメントの要旨(全体像、基本内容、ガイドライン)、先進企業から学ぶ事業リスクマネジメント			
第3回目	リスクマネジメントの定義(事業リスクマネジメントシステム構築の意義/部門別リスクマネジメントから統合的な事業リスクマネジメントへ)			
第4回目	企業のリスクマネジメントの実務(企業のリスクマネジメント業務の全体像、リスク識別の方法と範囲、インテリジェンスマップ、コントロール・セルフ・アセスメント)			
第5回目	企業のリスクの評価基準(リスクの定量的評価、リスクの定性的評価、リスク対策のプログラム)			
第6回目	事業リスクマネジメントシステム構築と維持(事業リスクマネジメント実施体制/事業リスクマネジメント体制構築の準備)			

第7回目	事業リスクマネジメントシステム構築と維持(全社的リスクマネジメント統括体制/CROを核としての構築/リスクマネージャーの役割/リスクマネジメント委員会の設置/リスク管理部署の設置)
第8回目	リスクマネジメント方針(リスクマネジメント方針策定の意義/リスクマネジメント方針と策定)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション②)
第9回目	リスクマネジメント計画の策定と実施(リスクマップとは/業務別のリスクの洗い出し/現場でのリスクの洗い出しを支援する)
第10回目	リスクマネジメント計画の策定と実施(洗い出し対象リスクの範囲/リスク評価指標の決定/リスク戦略/リスクマネジメントの目標/リスク対策の選択)
第11回目	クライシスマネジメント方針(方針策定手順と公表/リスクの洗い出しと評価/リスク洗い出しと評価のステップ)/レポート課題説明と出題
第12回目	クライシスマネジメント計画の策定と実施(リスクファクター別取組み/製品要因リスク/情報セキュリティリスク/市場リスク/信用リスク)
第13回目	リスクマネジメント計画の策定と実施(レピュテーションリスク/クライシスマネジメント/事業継続計画(Business Continuity Plan) /内部統制)
第14回目	リスクマネジメントシステムの評価と是正・改善(リスクマネジメントパフォーマンス評価/評価指標の設定/評価の実施)、(グループワークによるプレゼンとディスカッション③)
第15回目	リスクマネジメントシステムの評価と是正・改善(是正・改善の継続的实施/組織の高経営責任者によるレビュー/リスクマネジメントシステム監査)
事前・事後学習	事前学習(シラバスの学習ポイントを自分で調べ、質問事項等を準備しておくこと)・事後学習(ノートを見直しながら、1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜き、3)自分で調べ・学ぶ姿勢を身につけること)

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	以下の3点から評価する：①ノートに関し、創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。S評価の基準：上記参加態度を全て満たすもの。
レポート	30%	Sのレポートの評価：①創意工夫してまとめられている、②自分の意見を論理的に展開している、③課題の本質と学習成果が十分にまとめられている。レポート最新課題は、月1回計3回提出予定(締切は各月末)。
調査報告書		
小テスト	20%	グループワークによるプレゼンテーション力のS評価：①内容が創意工夫した発表となっている、②グループの意見が論理的に述べられている、③グループで協働し、積極的に質疑応答に臨んでいる。
試験	20%	期末記述試験
発表内容(態度含む)	20%	Sのレポート発表評価：①創意工夫した発表となっている、②自分の意見をまとめながら論理的に述べている、③積極的に質疑応答に臨んでいる。
その他		上記評価基準に基づき成績評価：S(傑出した内容)=90-100、A(平均を上回る内容)=80-89、B(平均的内容)=70-79、C(平均を下回る内容)=60-69、D(左記以外の内容)=0-59

教科書と参考図書

長江庸泰作成の“デジタルテキスト[リスクマネジメント論2019年度版]”を活用する。

履修上の留意点・ルール

●実務経験(職種：会社役員、職歴：通算39年)  
 本学の教育理念(想う人、考える人、行う人を創る)を体現する、「1)常に疑問を持ち、2)物事を多面的に考え抜きながら、3)自分で調べ・学ぶ、自主創造の精神に基づく課題解決型のアクティブラーニング」を常に心掛けましょう。